
はだかのころ

ぱくどら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はだかのころ

【Nコード】

N5909N

【作者名】

ぱくどら

【あらすじ】

詩を書く自分が素直になれるような気がします。共感されるかされないか、それは読む方々の感性です。けれど、ここに書く詩は私の丸裸の気持ちです。

理想と現実（前書き）

この詩は、私が高校生のときに書いた詩です。
進路とか色々抱えていたなあと思ひます。

理想と現実

幼い私、君は今の私を見て何を思うだろう
今の私、昔と今それぞれ見てきて何を思う

夢を描いたはずの白いキャンパス
色を丁寧に選んだつもりだったのに
いつの間にか色は適当で
何を描くか忘れられた灰色のキャンパス

やり直しもきかないキャンパスに
仕方ないからと、別の色を塗り始める
忘れてしまっているのに、塗りつづす

いつも通った道、いつも見たきた風景、幼い君が見えそうな景色
その場所には君がいたはずなのに、今は遠い過去の人
思い出すのはあの日気持ち
戻りたくても、会いたくても届かない手の平

見えない声（前書き）

大学時代は、ほんとぐーだらな生活でした。
思い出したくありません。

でも、今の私があるのは、そんな時もあったからだと思うと否定し
きれません。

見えない声

バスの窓から一瞬、懐かしい学校を見えた

いつからか、あそこにいたはずなのに遠い過去になっていて
気づいたら、いつの間にかふらふらと彷徨って苦しんでいて
無邪気な子どもがグラウンドを駆け回っている

彷徨うことと駆け回ること、似てるようで全然違う

いつからだろう、現実を見つめ始めたのは

いつからだろう、夢を捨て始めたのは

いつからだろう、自分を見失った日は

家のダンボールの中から古いノートを見つけた

歪な字に落書きだらけのノート

だけどなんだか憎めなくって

歪な文字だけど羨ましくって

無邪気な私の幼い顔がそこから感じられるような気がして

進み続ける時の針

どうか、どうか戻してほしい

夢を見てそれを信じて止まなかった私に

刻もうとする時の針

どうか、どうか叶えてほしい

消えかけた希望の灯

それを再び灯したいと思う私の願いを

ある日のツバメと蛇とオタマジャクシ（前書き）

悩んでいた時に田舎へ行きました。

時間がゆつくりと過ぎる場所。時間に追われることもない。

そんな中に見つけた三種の生き物。

何も語らない彼らから何か教えてもらったような気がしたのです。

ある日のツバメと蛇とオタマジャクシ

ツバメを見ていた。静かに電線から電線を飛び回るツバメ。ピツピツと鳴き声が部屋まで届く。

一年間そのままだった巢にツバメが帰ってくるんだ。そう思いながら飛び回っているツバメを見ている。

一匹二匹と、私の上を飛び回っている。

私から見ればどれが雄でどれが雌なのかさえわからない。ましてや、どれが母親でどれが子どもなのか、わかるはずもない。

去年産まれたツバメの子なのだろうか。それとも再び夫婦があの巢に戻ってきたのだろうか。

人間の私には見分けはつかない。

野原に出ると、蛇が二匹いた。頭を鎌のように上げどこかしらを見ている。

その方向を見ても私には何も見えない。すると、一匹の蛇がスルスルと移動し始めた。

それを見た一匹の蛇がその後を追うように、スルスルと追いかけて始めた。

私には喧嘩でもしているかのように見えた。いや、もしくは見つめていた獲物を一緒に追いかけているのかもしれない。はたまた求愛するために追いかけているのかもしれない。

人間の私には本当の理由などわからなかった。

田んぼを覗くと、たくさんのおタマジャクシがいた。うじゃうじやと、ゴマを振りまいたようにひしめき合っている。

田んぼと言えども狭くはない。なのに、おタマジャクシはそこがいいのかどれも動こうとはしていない。

他のオタマジャクシの尻尾が顔に当たろうとも動かず、争いもな

く、ただうじゃうじゃと身を寄せ合っているように見えた。

本当はどう思っているのか、なれもつと広い場所を選ばないのか。人間の私には、オタマジャクシの考えなどわからなかった。

同じ人間の集まる街、学校、職場。生憎、同じ人間同士のため言葉が通じる。

ツバメのように、同じ格好の人間同士には見えない。

蛇のように、言葉が出せないわけではない。

オタマジャクシのように、人間全ての考えがわからないわけではない。

では、ツバメから見る人間は、どんな風に映っているのだろうか。蛇から見る人間は、滑稽な行動を取っているように見えるのだろうか。

オタマジャクシから見る人間は、どんな思考なのかと疑問に思っているのだろうか。

種族が違う故に、思うことも様々なのだろうか。

しかし、人間の私にそれらを確かめる手段はない。

知りもしないことを分かせようとする、分かりもしないことを押し付けようとする。

それらを見ていると、そんな考えが馬鹿らしく思えた。

曖昧な距離（前書き）

最近、恋しました。

今の関係を維持するか、それとも思いをぶつけるか。

きつと誰しも迷うことなんだろうと思います。

曖昧な距離

足元に透明な膜があつて
その上に私は立っている
そんな感じ

膜の下に見えるのは
暗く何も見えない海
落ちれば溺れそうな危険な場所

そんな膜の先
同じく立っているのは貴方
でも、少し前にいる

進みたい
近づきたい

でもいつ破れるかわからない膜

私を見る貴方は微笑んでる
もっともっと近づいて
もっともっと話したい
もっともっと貴方を知りたい

一歩進むごとに揺れる膜
次踏み込めば破れるかもしれない
進みたいと思う気持ちの一方で
落ちたくない、と足が拒んでる

どうしたら貴方に近づけるんだろ

一気に突っ走って貴方の元に行けたなら
貴方は私を受け入れてくれますか？

もし膜が破れてしまったなら
貴方は暗い海から助け出してくれますか？

奥病な私

結局どちらも怖いから
いつものように遠くから貴方を眺める

柔らかな膜の上
ゆらゆらと揺れながら

形のないもの（前書き）

恋は人を変える――なんて聞いたことがあったんですが、これは本当ですね。

実際、今の私がそうです。

例え実らなくても、これを良い機会に自分を見つめ直したいと思います。

形のないもの

気づいたら言葉として出ていたの
なんでかな

あなたといると
素の自分に戻される

世の中は怖いから
いろんなものを着こんで
着こんで

気づいたら自分で脱げなくなっちゃって
どこまで脱いだら本当の自分なのか
わからなくなっちゃって

けどね

あなたといると
あなたとしゃべると
すごく楽

重い重い
荷物がどんどんとれていって

気づいたらね
本当の自分がいるんだよ

あなたはどうか
私の目の前で
本当のあなたでいてくれるのかな

もしそうだと

すごく嬉しいよね
すごく嬉しいんだよ

ふられ記念日（前書き）

好きな人に好きと言って、回答を迫りました。

すると、そういう関係を作る気はない、との返事をいただきました。正直、ショックでした。

が、その人は親友になろうと言ってくれたのです。

今考えると、その人なりの気遣いだったのかもしれないです。

でも、私の中で【親友】という言葉がしつくりときました。

なので、ショックを受けたころは、その言葉に癒されました。泣きませんでした。

ただ純粹に、今まで通りのその人との交流を続けていきたい、そう思ったのです。

ふられ記念日

私たちは機械じゃないから

愛情度なんてメーター存在しない

私たちは人間だから

愛情を図る物差しなんて存在しない

【好き】 【嫌い】

【友達】 【恋人】

けれど言葉の意味は
はつきりと違うんだ

あなたと私の関係は
メーターで示すとどうなるんだろうね

あなたと私の関係は
言葉で表すと何になるんだろうね

私たちは機械じゃないから
言葉や思い出を簡単には消せない

私たちは人間だから
強がる部分も弱い部分も持ち合わせてる

でもね

一つだけ

あなたと出会って後悔なんてない

ただ

ただ

今まで通りのあなたで

今まで通りの私で

この曖昧な関係が続けばいいと
それだけを

願ってるんだ

気付いたよ（前書き）

好きな人を忘れよう忘れようと考えていました。

早く、次に気になる人を見つけなきゃ、と。

でも、そんな人、すぐに見つかるはずない。

あの人に言ったことを、簡単に次の人に言えるほど、私は強くありません。

そう思うと、苦しくなって辛くなって。

でも、その時気付いたんです。

思うだけでもいいんじゃないかって。

無理に忘れようとするから、心が苦しいんだと。

だから、私は無理に忘れようとすることはやめようと思います。

気付いたよ

忘れよう

そう何度も心に決めても
失敗してしまう

むしろ

そう思う度に
心は忘れまいとするんだ

もう会わない

そう何度も決めても
気になる

あなたに
会いたくて
会いたくて

あなたの声が
聞きたくて
聞きたくて

だからね
一つ決めたんだ

無理に忘れまい、と

自分の気持ちに素直に
心を縛らない、と

結果はわかってる

もう駄目だとわかってる

けどね

無理をしても傷が癒えないって
気付いたんだ

ただ自然に

ただあなたが

幸せになってほしいって思ってる

でも少し、少しだけ

その相手が私であればいいと
ほんの少しだけ思ってる

私のことを記憶の片隅に

少しだけ

少しだけでも

残してくれたのなら嬉しいな

見えない透明の壁（前書き）

先日のことです。同期の人と、一期入社違いの人の三人で飲みました。

どちらも普段からよく話す、仲の良い人たちです。

いろんなことをしゃべりながら飲んでいたのですが、終わり間際、同期の人からこんなことを言われました。

「最近、○○さんと仲良くしゃべっているのを見て、寂しかったけど打ち解ける人ができてよかったって思ったよ」

「○○さん（私のこと）って同期の人と距離置いてるもん」

と、言われました。正直、衝撃を受けました。

だって、それを言った同期の人、同期の中でもよくしゃべってた人なんですよ。

友達って思っていたのに、距離を置いていると捉えられている、と。しかしながら、よく考えると確かに距離を置いていたようにも思うのです。言われたからと言って、はい皆さんと距離を置かず仲良くします、なんて思わない私。

私が歪んでいるかもしれないけど、【友達】という言葉の中にも重さが違う友達があっても良いと思うのです。

見えない透明の壁

『距離を置いてる』

と、友達から言われた

友達と私は思ってる

今だってそう

あの人は友達

『でも、打ち解ける人ができたみたいでよかった』

と、友達から言われた

本当に嬉しそうに笑って言ってくれた

そう言った人は友達

その友達曰く、私が打ち解けた相手も

私の友達

世の中、私と関係ない【他人】ばかりだと思う

でも、その【他人】という枠の中から

私の友達となった人が幾人かいる

その中

友達という言葉にも

【友達】という枠を作ると

そこから出てくるのは

親友らしい

友達をたくさん作りましょう
みんな仲良くしましょう

そんな着飾った言葉

あくまでも理想

いや

むしろ押しつけじゃないかって
最近思う

友達をたくさん作っていたら
たくさん自分を作らなきゃならなくて

みんなと仲良くしてたら
本当の自分を見失うんじゃないかって不安になって

そんなことを思うのは私だけかもしれない
たくさん友達に囲まれても
時々、寂しくなる

誰か

本当の私を知る

本当の友達を知りませんか

あの日持っていた、忘れられたモノ（前書き）

刺激のない穏やかな日々が続くと、ふと考えることがあります。

なんでこんな毎日になったんだろう、と。

穏やかな日々は幸せなことかもしれません。それが自分で望んだことならば。

逆に刺激ばかりの日々も、望んだことならば幸せなのかもしれません。

どちらでもない今の日々は、ただ無情に過ぎていくだけなんです。

あの日持っていた、忘れられたモノ

ああ私は、いつも思う

何を目指していたんだろう、と

あれになりたい、あれをやりたい

いつも、あれ、あれと思っていたのに

ふと思ひ出そうとすると、あれ、を忘れてしまっている

ああ私は、とまた考える

何を目的に生きているのだろう、と

日々過ぎていくのは、人と時間、ただそれだけ

私はその波の間に、漂っているだけなのだ、と

だがいつか、漂っていることさえも、忘れてしまうだろう

ああ私は、と目を開けてみる

何を目印にここまで来たのだろう、と

気づけばこの場所に立っていた、などということはない

何かしらの道しるべを頼りに、ここまで歩いてきたはずなのだ、と

だがいつか、道を歩いてきたのは自分自身、ということさえ忘れるのだろうか

ああ私は、と再び目を閉じる

何を信じ今日から生きていくのだろう、と

過去を忘れ、新しく一步を踏み出せばいい
だが過去を忘れようと、今いる私は過去の自分であり今の自分なの
だ、と

過去を忘れよう、過去を思い出そう、結局、どちらも答えは自分自
身の中にしかない

ああ私は

結局、私でしかないのだ

友達以上、恋人未満（前書き）

今、すっごく心が苦しいです。

タイトルにもあるこの関係、こんなにも切なく苦しいとは思いませんでした。

電話をすれば時間を忘れるぐらい楽しい。

けど、ふられている私。

でも、普通に接するあの人。

話にくいことも、話すし話してくれる。

友達以上、なんだと思います。

けど、ふられてるんです。

楽しい、けど、苦しい。そんな関係。

友達以上、恋人未満

心が鳥かごの中に押し込められてる
解き放ちたいのに開けられない

苦しくて

だけど

飛び出す勇氣もなくて

だからこのまま

かごの隙間から世界を眺めるの

鍵を持っているのはあなた

あなたは私の心を知ってる

かごの外からそっと眺めてるんだ

優しい言葉を掛けたり

冗談を言って笑わせたり

私も嬉しくて

あなたと一緒に笑ったり

時間も忘れて話したり

だけどね

その度心は悲鳴をあげるの
悲鳴は私にしか聞こえない

かごの外のあなたの目には

喜ぶ私の心しか見えていない

そんなこと言えるわけない

喜ぶあなたが見たいから

苦しそうな私を見れば

優しいあなたはきっと

心を世界に解き放ってくれる

けど、きつとその世界にあなたはいない

だから

私はかごの隙間からあなたを眺める

苦しさで引き換えに

あなたと一緒にいたいから

尖った言葉（前書き）

最近、仕事でうまくいきません。

励ます言葉さえうまく聞こえず。もう駄目だと悲観し。

そんなとき耳に入った言葉は、信用できる人の叱咤。優しくない言葉。

けど、一番の励ましの言葉でした。

尖った言葉

何か失敗をしてしまった時

途方もなく落ち込んで

もう自分は駄目だと何度も否定して
もう誰も私を頼らないと悲観して

落ちて落ちて

周りの励ましの言葉さえ
何か嘘の言葉に聞こえた

できるだけ頭を下げて

できる範囲でお詫びを言って

でも

それでも

時間は戻らない

そんなとき

救いの手を差し伸べたのは
あなたの言葉

しっかりと話を聞いてくれて

きっちり叱ってくれて

けど、最後には笑わせてくれて

落ち続けていた私が一瞬だけ
ふわっと浮いたような気がして

不思議な人

優しくない、尖った言葉

けど

なぜだろう

どこか温かい言葉だったんだ

落ちて堕ちる（前書き）

何をしても駄目な時期ってありますね。

今そんな時期でほんと辛い。

何をやっても駄目で、身動きがとれません。でも時間は無情に過ぎていく。

やっぱり動くしかないのかもしれないかもしれません。

たとえ失敗し、人から罵声を浴びせられても。それが道を切り開く唯一のやり方。

落ちて墮ちる

歩けば、そこに穴ができる

手を伸ばせば、そこに棘が生える

声を出せば、そこに騒音が鳴り響く

何をしても駄目

考えれば考えるほど深みにはまり

やり直そうとすればするほど落ちていく

ああ

どうすればいいんだろ

歩いて駄目なら立ち止まろうか

手を伸ばして駄目なら出るまで待とうか

声を出して駄目ならただひたすら見守ろうか

何もできなくなる

怖くてそこに立ち止まる

そして気づく

周りに逃げ道などない、と

切り立った崖を超えるには

自ら飛び越えるしかないのだ、と

痛みを伴うとわかっていながら
それをしなければ落ちる

何もせずにただ落ちるか

いちかばちかの賭けに出て飛び越えるか

さあ

どうする

私に帰りたい（前書き）

やることなく家にいる時間は、最近苦痛になっています。

ほんの一年前だと、PCを開いて何かゲームか何かをするか、音楽を聞くか、はたまた友達と遊んで気晴らしをするか、など色々な手段がありました。

ですが、最近皆忙しく時間が合わない。

ゲームを開いても満足感が得られない。

気づけば、今までの私では満足できなくなっています。

どうして。

私は、私に戻りたい帰りたい。

現状が嫌だというわけではありません。ただ、私を返してほしい。どうしようもないことですね。

この詩も意味がわからないものかもしれませんが。

私に帰りたい

色々な変化が起こりすぎたんだ

今までの人生は

何もなくて穏やかな波の上を進んでいた船

けど、このごろは違う

穏やかな波の後に必ず大荒れの波になってる
今だってそう

うまくいかないことばかり

心休まる時があったあと

必ず何かが私を邪魔しにくる

私はただ平凡な幸せを願うのに

幸せって人それぞれでしょう

ただただ

私は私であればいいと思うのに
気づいたら最近はどうなんだよ

誰かのために頑張って

誰かのために頭を下げて

誰かのために笑って

今まで私のためだと思っていたのに
最近是谁かのためになってるんだ

でもね私も知ってる

それが生き抜くために必要なことだと
それが世の中の当たり前前なんだと
それがすごく幸せなことだと

誰かのためにやったことは
きつと

きつといつか私に返ってくると信じてる

もし違うなら

私は私に帰りたい

なにもない平凡な波の上
ただ静かに進む船でいい

海の遠くから
誰かの船を眺めてるだけでいい

幸せって人それぞれでしょう

私の知っている人が幸せになってるなら
それを眺めることができたならなら
それが私にとっての幸せ

私は私に帰りたい
何も考えず毎日を過ごしていたあの日に
けど、もう戻れない

だって幸せって変化するもの

きつといつか

誰かのために行動する人の

その対象になりたいって

私も少しだけ——願ってるもの

境界線（前書き）

振られた恋でしたが……ようやくふつきれそうです。

ようやく、ようやくあの人と友達として付き合えそうなそんな自信が出てきました。

やっと荒れていた気持ちが落ち着きそうです。

ここまで長かった。

でも、やっぱり好き。

けど、この好きは前とちよつと違う。そんな気がします。

またいつか、ぐらぐらと揺れそうな心ですが、自分からは揺らぎません。

押されたら揺れると思いますけど。それはないでしょう。

境界線

何気ない一言

何気ない行動

そんなささいなことで
貴方のことがわかれ
ば
どんなに楽だろう

そうすれば

振り回されることも
笑われることもないのに

時間が解決してくれる

そう信じてあなたと接した今日まで

最初は信じられなかったけど
やっぱり時間は傷を癒し
そして

心を落ち着かせてくれる

冷静に見れば

二人で積み上げていたと思っていたおもちゃの塔は
実は私一人で必死に積み上げていたんだよ
あなたはそんな私を眺めていただけ

そんなことに気がつかず
私はただ一人焦っていた

積み上げれば、きっとあなたは振り向いてくれる
そう信じてた

私だけ信じてた

けど、答えはわかった

もう私自身、納得できた

都合の良い女でいたくないから

あなたはあなたでいてほしいから

少しだけ踏み越えていた境界線

そこから退くね

でもあなたからは逃げることはしないよ

嫌いになんてなれないもの

あなたも私も、色々なこと知りすぎたもの

だからずっと

この関係のままでもいいよね

ぐるぐる（前書き）

色々考えても仕方ないことってありませんか。

頭の中でいくら考えたってどうしようもないこと、ありませんか。

そんなときって、やるしかないんですよ。たぶん。

ぐるぐる

ぐるぐる

行きすぎたコース
走りすぎたわたし

戻れないと思った矢先
実はスタート地点に戻ってた

ぐるぐる

もう駄目だと思ったとき
実はスタート地点に戻れてた

ぐるぐる

ゴールしたと思った矢先
実はスタート地点に立ったばかりだった

ぐるぐる

ぐるぐる

人生ゴールなんてないのかも
人生スタートばかりなのかも

あたまの中までぐるぐるしても
きっと迷っちゃうだけ

コースがあれば走ればいい
ないなら自分で作ればいい

ぐるぐると

人生まわりにまわり

そしていつか

立ち止まった場所が
ゴールなんだ

乗り越えて（前書き）

あの人と二人で会いました。二回目です。

前回は自分の気持ちを言う前。今回は言った後。

そんな長い時間会っていたわけではありません。

けど、前とは違う感覚でした。

友達、の感覚です。

会ってみて、ようやく、自分の気持ちに整理ができました。

ありがとう。

私の短い恋物語はこれにて終了です。

乗り越えて

友情と恋愛との壁にぶつかって
悩んで考えて

あなたを失いたくない
あなたと一緒にいたい

ただそれだけだった

けど時は流れ
少しづつ傷が癒されて

こうやって会って話せて
ようやく前と同じような感覚になれた
やっぱりあなたってずるい

私の言葉、覚えてる？
あれは嘘じゃないよ

でも、今はそれでいいやって思ってる
だって、何でも話せる相手を
私は失いそうになっていたんだもん

それって悲しいよね
それって苦しいよね

きつとあなたも悩んだと思うんだ

……そうじゃないかもしれないけど
それならそれでいいや

だってそれが

あなたと私の関係の証

近すぎず、遠すぎず

この言葉通りだよ

でもね

会おう、っってもう言わない
好きだ、っってもう言わない

言わないことも

良い時もあるって

今回それを学んだから

今度はあなたが壁にぶつかればいい
ってひそかに企んでるけど
……むりかなあ

むずかしいことはぬきで（前書き）

全てをひらがなにすると、なんだか頭の中がからっぽのような感じがしませんか。

この詩を書いたとき、なぜか漢字変換しませんでした。

本当に、何が何やら意味がわからず。

むずかしいことはぬきで、簡単な答えがほしかったただけなんです。

そして、今も。

むずかしいことはぬきで

どれがほんとのきもちか
じぶんでもわからなくなりました

むずかしいことはぬきで
すべてたんじゅんにかんがえても

やっぱりわからないんです

すべて

あのひとへのきもちはきえた
と

おもっていました

けど

ねるまえにうかぶのは

あのひととあうひのこと

いつかかなえたい

あのひととあそぶひのこと

なぜなんだろう

もうあきらめたとおもっていたのに
どうして

わたしのきもちほうそをつくんでしょうか

あれ

どっちがうそかわかんないや

しごとをがんばりたいんです
と、じょうしのひとにいうけれど
じっさいちがうんです

もうきつくてきつくて
つづけるじしんがないんです

でも

やめるゆうきもないんです

どうすればいいんでしょうか

だれか

むずかしいことはぬきで

わたしにこたえを
ください

むずかしいことはぬきで

わたしにほんとのきもちのありかを
おしえてください

かたおもい（前書き）

学生のとぎってクラスに好きな子がいると

知らず知らずのうちに目で追いかけてました。

授業中とか休憩中とか下校途中とかいろんな時に。

何であんなに見てるのに、向こうは気づかないでしょうね。

不思議だ。

かたおもい

出会った瞬間は何ともなかった
でも

君を知れば知るほど興味が出て
君と話せば話すほど面白くて

ああこんなに気が合う人も珍しいなんて思ってた

気持ちに変化があったのはほんと些細なこと
いきなりね

本当に胸がドキッってなったんだよ

笑われそうだけどそうなんだ

でも、この音は私だけ

私だけに聞こえた音

世界を変えた小さな音

前まで意識してなかったのに

目は君を見つめて

耳は君の言葉を探して

足は君を追いかけて

自然と身体が君へと向かってるんだ

なのにどうして

どうして君は気づいてくれないの
どうして君は私を見してくれないの

君のことを好きになればなるほど
苦しくて
切なくて

君が誰か他の子と話してる
君が誰か他の子と遊んでる
君が誰か他の子と――二人でいる

そんなの
聞きたくない
考えたくない
見たくない

どんどん欲張りになって
どんどん悲しくなって

好きになるんじゃないかった
なんて考えてみたりしても
やっぱり好きなんだ

好きって気持ちは抑えられないんだよ
ねえどうすればいいの
ねえどうしたら君は気づいてくれる？

嘘はつけない（前書き）

私ってほんと未練がましい女です。

やっぱり……この恋、終えることができない。

終えたい。けど、終えるならば直接会って、言って、答えがほしい。
言ったのが電話だったのですごく後悔です。

あの人は……会ってくれるかなあ。

嘘はつけない

心ってどうしてこんなにも正直なんだろう
私ってどうしてこんなにも弱かったんだろう

未練たらしいって言われても仕方ない
潔くないって言われても仕方がない

やっぱりね貴方が好きなんです
やっぱりね貴方に会いたいんです

もう苦しくてどうしようもないんです
貴方に会うと少しの間だけ良くなる
けど次はもっと苦しくなる

早く声が聞きたい
早く会いたい

わがまま、だと自分でもわかっていても
でも

どうすればいいの

迷惑なら切り捨ててほしい
お前なんか嫌い、と言ってほしい
直接会って言ってほしい

電話とかメールとか
そんな寂しいやり方はもうやめて
貴方を忘れたいから

心の中に貴方という未練を断ち切りたいんです

ちゃんと目を見て

私は逃げないよ

そして、それからもう何もしない

ううん、何もしないように思い出から貴方を消したいの

教えてもらった電話番号アドレス

言われたなら、すぐに目の前で消します

人間として失いたくない

けど、ごめんなさい

本当に

自分勝手にごめんなさい

私も、私と言う人間をこれ以上迷わせたくないんです

貴方から教えてもらった色々なこと

きっと、誰にも言えないような秘密のこと

それも頭の中から消したいです

思い出すと、きっと苦しいから

それは見せることはできないけど

きっと時間が消してくれるから

貴方のことが好きです

忘れられません

だから

少しでも

私のことを気にかけてくれるなら

どうか

私を嫌ってください

あまのじゃく(前書き)

全ての人が同じ考えではないと知っています。

けど、どうにも、心がひねくれていると、こんな詩の見方になってしまいます。

反省。

でも、仕事柄、ほんと、色んな人を見るんですよ。

世の中、良い人ばかりではありません。

あまのじゃく

目標を高く掲げ人に公言する人
結果、何もしない自堕落な人

あまのじゃく

『何であんな失敗するんだろうね』と人を見下す人
実は、一番自分の失敗に気づいていない人

あまのじゃく

かわいそうだね、と言葉の同情を振りまく人
きっと、自分の立場を安心したい人

あまのじゃく

自分という強い信念を持っている人
実は、人の意見を聞けないただの意固地な人

あまのじゃく

いつもべらべらと口の柔らかい人
でも、人に挨拶もできない無口な人

あまのじゃく

ああ

色んな人がいる

多くの人とすれ違うことしかないこの世の中
そんなときに色んな人の声が聞ける幸せ

そう思っている私も

あまのじゃく

失恋（前書き）

あの人に会う機会がありました。

というより、食事に誘われました。これからのことも話していました。

私は、付き合える、と思っていました。

でも違いました。

あの人は今のままの関係がよかったんです。

でも、私はそれに耐えられない。

この気持ちを維持したまま、友達の間を続ける自信がない。

あの人も私のことを好きだと言ってくれました。

けど、その好きは恋愛じゃない。

もしかしたら、この関係が続けていく中で恋愛感情が芽生えるかもしれない。

でも、そんないつになるかわからないこと、私は待てない。

もう不安な思いをしたくない。

結局は私のわがままです。

私は目の前で連絡先を消しました。

そうしないと、絶対にまた連絡してしまう。

あの人にも私の連絡先を消してもらいました。

それでいいんだ、と今自分に思い込ませています。

帰って、少しだけ

泣きました。ただ悲しい。

失恋

ただ悲しい

自分が間違っていたんじゃないかと

何度も問うけれど

本当の答えなんてわからない

私が間違っていた？

けど、後悔したところでもう戻れない

結局、最後まで貴方は私を嫌わなかった
けど、お別れしないと私が辛いの

貴方の好き

私の好き

二人の『好き』がちよっと違っていた

本当に、私は貴方が好きだった

好きだから、迷惑をかけたくないから
もう連絡しないよ

踏み出さないと

そう思っても

ただ悲しい

途方もなく

ぽっかりと穴が空いてしまって

この穴を埋めるものなんてきつとない

それほど貴方との時間は楽しかった
きっと貴方も楽しかった
だから辛い

これからどうすれば貴方を忘れられるんだろう
これからどうすれば貴方以上の人が現れるの？

何もわからない

今あるのは

ただ悲しい感情だけ

いつその事

貴方に会わなければよかった
こんな悲しい思いをするなら……

悲しい言い訳（前書き）

なんで心ってこんなにも自分勝手なんだろうか。

今少しだけ、後悔しているんです。

どうして。

あの時の私の心は、それがいいって思ってやったことなのに。

もう心乱されなくなかったただけなのに。

結局、悩んでる。

私はだから、心に言い訳をしてなんとかだめようとしています。
『自分が嫌いなものを、他人に勧めることなんてできないでしょ』
って。

悲しい言い訳

全てがうまくいくはずがない
そう頭でわかっていても

心は痛みを嫌がって

何とか逃げ道を作ろうとする

現実を受け入れない

私にそんなつもりはないのに
心のどこかでそんな風に
きっと思っているんだろう

そんなかわいそうな心に
私は悲しい言い訳を言い聞かせるんだ

『これは初めからわかってたことだよ』って

『私と一緒にになったら、あの人がかわいそうなもの』

『私なんかよりも、もっと素敵な人がいるもの』

『こんな私のことなんか、好きになってくれるわけないじゃない』

『今までのこと、全てあの人の優しさだったんだよ』

心に言い聞かせる

そう言う

根暗な私の心は
妙に落ち着いて

自然とその事実を受け入れようとする

こんなちっぽけな私

小さな小さな私

自分が好きになれないものを
誰かが好きになるわけなんかない

そう思うと自然と納得する

けど

少し

悲しくなる

このまま私は

私を好きになれないまま

また誰かのせいにしてしまうのかな

そんな悲しい言い訳は

ほんとは

したくないんだけどな

私の心よ

もっと素直になれ

もっと

もっと強くなろう

枯れた涙（前書き）

あの人に失礼なことをしたなと、後悔していました。

どうにかして連絡をしたい。そう思った矢先、消していない履歴があったことに気付いたんです。

こっちから消した手前、こっちから連絡していいものかどうか……悩みましたが、メールを送りました。

返事はないと、思っていたのにあっさり返事がきたんです。嬉しいというより、よかったと思いました。

やっぱり嫌いになんてなれないし、なってほしくない。

それが私の気持ち。

でも、この何もしない日々を過ごして思いました。

焦らなくてもいいやって。

このままの関係を続けても、きっと時間が解決してくれるだろう、と。

枯れた涙

ときどき思う

どんなに泣けたら楽になれるだろう、と
どんなに笑えたら幸せになれるだろう、と

そんなに難しいことじゃない
だれでもできることのはずなのに

泣きたいときに泣けない
笑いたいときに笑えない

どうしてだろう

面白いこと楽しいことじゃないときに
笑う自分がいて

辛いとき苦しい時に
見栄を張る自分がいる

まるでもう一人の私が
本当の私を邪魔するかのよう

そんなだから素直になれないんだろうか
そんなだから自分を苦しめているのかな

考えてもわからない
だって、もう一人の私も私だから

ときどき思う

もつと自分に素直になれば
どんな毎日になるんだろう、と

ハッピーバースデー（前書き）

誕生日です。

同じく12月11日生まれの人、誕生日おめでとうございます。

ハッピーバースデー

小さい頃は嬉しい日
けど、歳を重ねるごとに
時間を感じる日

けれどやっぱり特別な日には変わらないことで
また新しい自分へのリセット

ふと思い返して
今までの自分を考えてみるのだけど
何も変化していないと思う
毎年の誕生日

ハッピーバースデー

そんな言葉を使う人も減って行き
最近じゃ言ってくれる人は本当に数人
けど、その人たちが本当に大事な人

ハッピーバースデー

私が生まれた日
世界のどこかで私と同じように祝う人
みんなみんな
ハッピーバースデー

誕生日おめでとう

あなたにとっても
良い歳でありますように

発着駅（前書き）

長い恋でした。

何度も諦めようと思いました。でも、結局諦めきれなかった。

結果思いが通じました。今はただ嬉しい。本当に幸せ。でも、これからです。

もっと知ってほしいと思うし、もっと知りたい。

紆余曲折あったこの片思いと共に、この詩集も終わりたいと思います。

詩であって、詩じゃない、ほとんど独り言のような作品にお付き合いください。ありがとうございます。

発着駅

長い長い旅の終わりと
これから続く長い線路

何度も何度も考えて
何度も何度も悩んで

何度貴方のことを考えたのかわからない
私は貴方ではないし
貴方は私ではないから
互いのこと全て理解できているはずない

今はただ
やっと互いの思いが通じて
平行線を辿っていた線路が一つになった
でもね
本当の道はこれからなんだ

そんなこと、わかってるつもりなんだけど
やっぱり今はただ嬉しくて
もっともっと貴方を知りたくて
もっと貴方と一緒にいたい

本当にね
それだけなんだよ
何度も諦めようと思ったこと
きつと貴方は知らないから

私がどれだけ嬉しいかわからないでしょう

貴方も私のこと想ってくれるかなあ

けど互いの負担にならないよう

尊敬できて信頼できる仲になりたいね

先の見えない道

二人の想いが続く限り、線路は伸びる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5909n/>

はだかのころ

2011年10月3日20時12分発行